

陸自派遣延長を決定

5カ月11次隊 来月現地へ

南スーダンPKO

政府は25日の閣議で、南スーダン国連平和維持活動(PKO)への陸上自衛隊派遣に關し、今月末の期限を来年3月末まで5カ月間延長する実施計画の変更を決定した。安全保障関連法に基づく「駆け付け警護」などの新任務付与は11月中旬にも改めて閣議決定する方向で最終調整している。

新任務付与は最終調整

政府は閣議に先立ち、国家安全保障会議(NSC)の9大臣会合も開催。一連の手続きを経て、陸自第9師団第5普通科連隊(青森市)を中心とする11次隊を現地に送る予定だ。管義偉官房長官は25日の記者会見で、派遣は11月下旬以降になるとの見通しを示した。

新任務付与について稲田防衛相は記者会見で「隊員の習熟度、今後の治安状況を総合的に判断し、政府全体で決める」と述べるにとどめた。

延長は、国連安全保障理事会が南スーダン派遣団(UNMISS)の活動期間を12月15日までで延ばしたことに伴う

政府が25日公表した、南スーダン国連平和維持活動(PKO)への陸上自衛隊派遣継続に關する「基本的考え方」の要旨は次の通り。

一、南スーダンの治安情勢は極めて厳しい。首都ジュバは現在、比較的落ち着いた状況にあるが、今後の治安情勢は楽観できない。

延長「基本的考え方」要旨

一、7月にジュバで起きた大規模な武力衝突の後も、PKOへの陸上自衛隊部隊を撤退させた国は少ない。自衛隊は海外で活動するものではない。また「武力紛争」の発生とは考えない。PKOに参加する原則に合致する状況は引き続き維持されることを考えており、派遣継続が適当だ。

一、今や、いかなる国も武力紛争の当事者となる国家に準ずる組織は存在せず「戦闘行為」と評価するものではない。また「武力紛争」の発生とは考えない。PKOに参加する原則に合致する状況は引き続き維持されることを考えており、派遣継続が適当だ。

一、治安状況は極めて悪い。国連が新たに4千人の増派を決めるなど、国際社会は取り組みを強化している。

一、治安状況は極めて悪い。国連が新たに4千人の増派を決めるなど、国際社会は取り組みを強化している。

措置。派遣延長の理由を「自衛隊が安全を確保し、有意義な活動ができる状況にある」と説明。陸自が活動する首都ジュバの情勢は比較的安定しているとする一方、ジュバ以外の状況は「治安が悪化しているのは事実だ。緊張感を持って見ていく」と指摘した。

政府は派遣継続に關する「基本的な考え方」を文書で発表。停戦合意などPKO5原則は維持されしていると判断し「派遣継続が適当である」と結論付けた。

駆け付け警護は、PKOに参加する自衛隊員が武装集団に襲われた国連職員らがいる場所まで行き、武器を使って助ける任務。他国軍と共に宿営地を警護する「宿営地の共同防衛」とともに安保法施行で可能となった。



南スーダンの首都ジュバの難民キャンプに止まる国連の装甲車(7月)(AP=共同)